

スポーツイベント論		講義	非常勤講師 武田 作郁
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの選択必修科目, スポーツトレーナーコースの専門選択科目	科目ナンバリング	113112204

### 1. 授業のねらい・概要

経済産業省とスポーツ庁は、スポーツを成長産業と位置付け、2016年に5.5兆円だったスポーツ産業規模を2025年までに15兆円にまで発展させる政策を打ち出している。欧米に比べて遅れてきた日本のスポーツ産業は今まさに変革の時を迎えている。本授業では、スペクテイタースポーツ、エンターテインメントとしてのプロスポーツや地域課題解決のためのスポーツイベントを例に、歴史を振り返りながら、スポーツイベントの現状と展望を考察する。

### 2. 授業の進め方

パワーポイントの資料や映像を用いた講義形式で授業を進めていく。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 日本のプロスポーツ (アイスホッケー)
2. 欧米のプロスポーツ (アメリカ)	10. 地域課題とスポーツイベント (経済活性化)
3. 欧米のプロスポーツ (ヨーロッパ)	11. 地域課題とスポーツイベント (高齢化社会)
4. アメリカ型とヨーロッパ型の比較	12. 地域課題とスポーツイベント (姉妹都市交流)
5. 日本のプロスポーツ (野球)	13. スポーツイベントの問題
6. 日本のプロスポーツ (サッカー)	14. スタジアム・アリーナ
7. 日本のプロスポーツ (バスケットボール)	15. まとめ
8. 日本のプロスポーツ (自転車)	

### 4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業開始までに前回の授業内容を復習しておくこと。授業内で指示するレポートや課題に取り組むこと。これらの準備学習には2時間程度が必要である。

### 5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

授業内で適宜解説する。

### 6. 授業における学修の到達目標

プロスポーツの歴史と現状を学び、スポーツビジネスとはなんたるかを理解する。また、地域課題と手段としてのスポーツを結びつける実践的なスポーツ活用事例を理解する。その上で、生涯を通してスポーツとどのように関わっていくことができるかを想像できるようになることを目標とする。

### 7. 成績評価の方法・基準

受講態度+レポート課題への取り組み (70%)、期末課題 (30%) により評価する。

### 8. テキスト・参考文献

特定のテキストは使用しない。参考文献は適宜紹介する。

### 9. 受講上の留意事項

特になし。

### 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

### 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリ」欄の記載のとおり。